

原子力機構からの報告の概要  
(9月9日15時07分までに受けたもの)

- 本日(9月9日)7時40分頃、台風が強風により大洗研究所材料試験炉(JMTR)二次冷却系統冷却塔(横約30m、縦約11.6m、高さ約16.5m)が倒壊していることをパトロール中の協力会社作業員が確認した。
- JMTRは廃止措置に向けて準備中であり、平成18年8月以降停止中であることから、当該冷却塔は、現在使用していないが、施設定期検査及び保安規定に規定された施設定期自主検査の対象となっている。
- そのため、13時30分、試験研究の用に供する原子炉等の設置、運転等に関する規則第16条の14第3号(安全上重要な機器の故障)に該当するため、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第62条の3の規定に基づく法令報告事象と判断した。
- 当該冷却塔については、今後速やかに撤去を進めていく。それまでの期間、保安措置を行う。
- 排気ダストモニタ及びモニタリングポストの指示値に異常はなく、本事象による外部への放射能の影響はない。
- なお、当該冷却塔の倒壊に伴い、隣接するJMTR排風機室の壁面(2箇所縦75cm、横53cm及び縦30cm、横88cm)の破損(仮保修済)及びJMTR Bトレンチ(二次冷却系ポンプ室地下部分)に汚染のない二次冷却水の漏れを確認した。

以上